

池田氏

形を取っています。入社してまだ4年です。米国の大学に留学し、ソーシャルビジネスや社会事業管理を学びました。民間企業的な考え方をあまり持たぬまま入社しましたので、(周囲と)ぶつかることもありましたが、多少は役に立っているようになってきたのではないかと思っています。

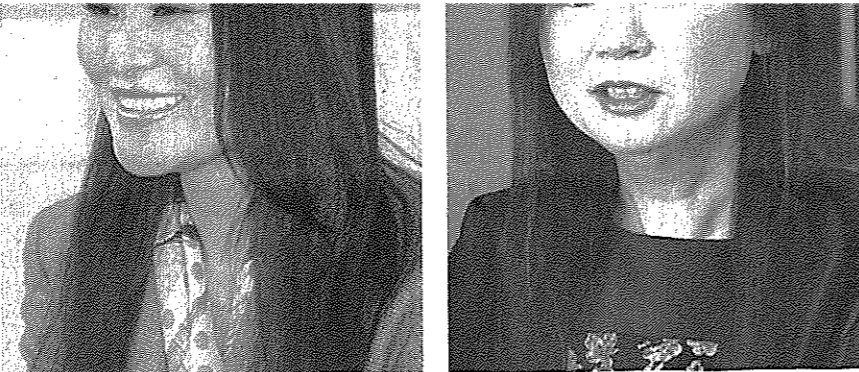
齋藤 1933年に主人の祖父が創業し、80年を超える老舗です。会社を構える両毛地区はもと古くから繊維の産地が盛んな地域でした。弊社を拡大したのはその地場産業を中心とした路線(特別積合せ)事業者とUO西をしてスタートしました。かつては輸出品も一手に手掛け状況を呈していたようですが、繊維業界の変遷、運輸業界の進化、世界経済の激変とともに業務内容の見直しを進め、12年に特積の免許を返上し、自社の存在する意味を考えないの前後に業態変更を進めているところと注しています。

大学卒業後、ヤマト運輸に入社しそこで主人と知り合い結婚しました。主人は東群運送の跡取りでしたので、帰るタイミングを探っていた中、89年、義父の死を機に群馬に戻りました。義父は病弱だったのでその間は社員が会社を支えてくれました。私たちは「もっと早く帰ってあげれば良かった。ごめんね。これまでありがとう」との感謝の思いを持って経営者の道へスタートしました。

時はバブル経済崩壊で、繊維業は事業撤退に拍車がかかり、弊社は新規事業に挑戦するも赤字続きという状況でした。私は給与計算と経理処理をパートとして手伝っていました。03年に夫が急死し、(経営の)バトンを引き継ぐことになりました。営業や配車の仕方も分からない中でスタートしたが、社員はじめ周りの方のお陰でここまで続けることができました。

一番の強み 池田

池田 創立14年弱なのでまだ多角化を進める段階ではありません。我が社が一番の強みは環境に特化していることです。取り組みが早かったことと本気の普及活動にまい進したお陰で、低公害トラックの分野では第一人者という評価もいただいています。弊社が環境に本気で取り組んでいることが評価され、通常の商取引であれば弊社の事業規模ではなかなかお取り引きできないような大企業とも取引をさせていただき、経営も安定しました。ほかにも環境をキーワードに我が社との取引を開始してくれた理解ある荷主があり、今があります。



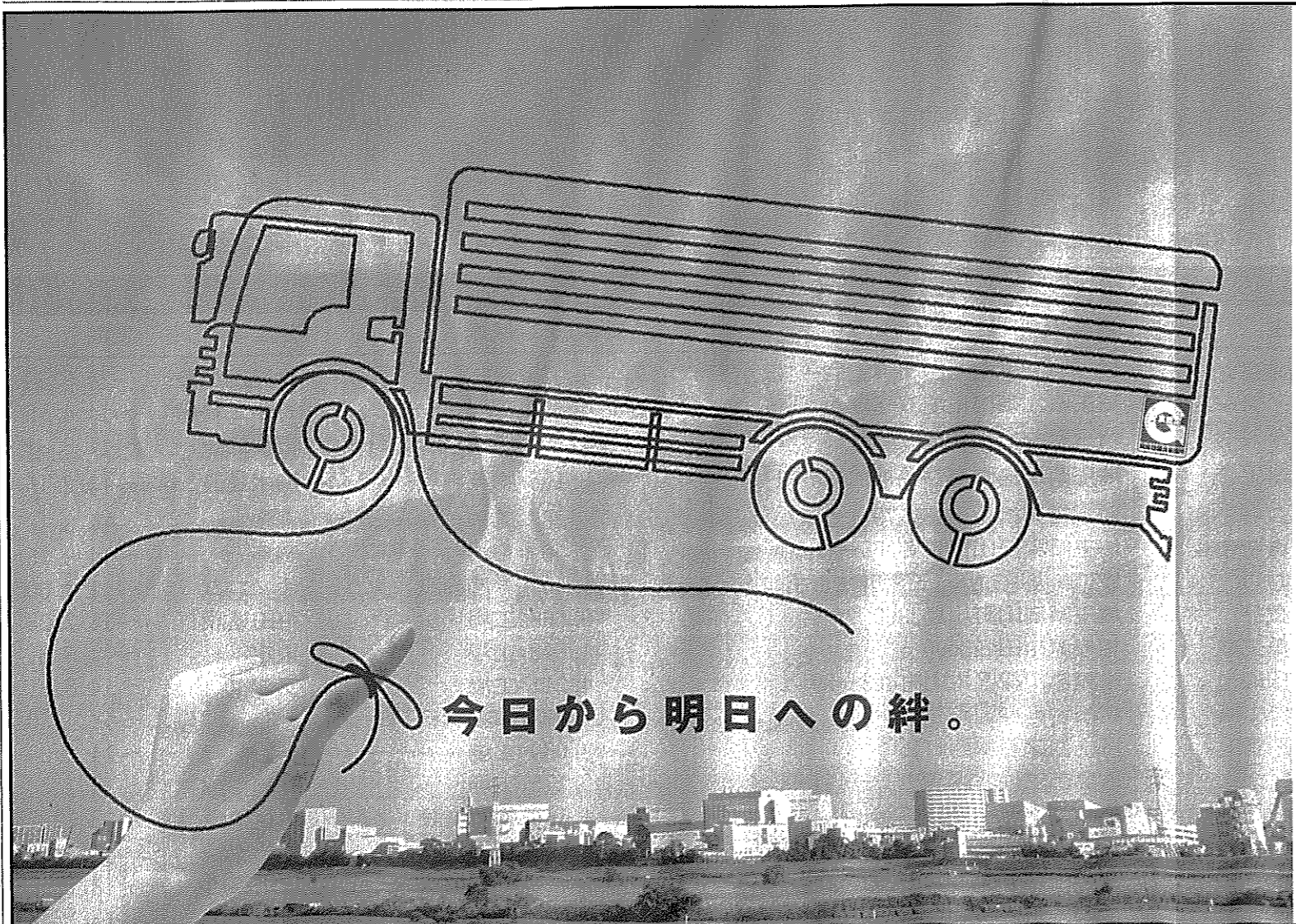
奈良氏

西川氏

- 池田 治子さん
- 西川運輸興業/取締役
- 西川 直美さん (紙上参加)
- 関東運輸局/自動車交通部長
- 奈良 和美さん (司会)

奈良 藤井さんの会社は通運業として環境に優しい物流に取り組んでいます。

藤井 鉄道輸送は、二酸化炭素(CO₂)排出量の削減、交通渋滞の解消、エネルギー消費量の削減に貢献しています。また福井県は全国でも失業率が低く、日本一幸せな県と言われているが、今年度はこれまで以上に求人してもドライバーが集まらない状況です。特に長距離ドライバーは高いレベルのスキルを必要としますので簡単には新規雇用できません。お客さまには、地球環境の保全に加えて燃料高騰、ドライバー不足の方策としてもモーターシフトをご提案しています。



今日から明日への絆。

トラックの約束。

トラックは走り続けます。
国内輸送の約90%を担うトップランナーとして、
トラックは今日も日本中の暮らしを支えています。

トラックは生活と経済のライフライン

JTA 公益社団法人 全日本トラック協会
http://www.jta.or.jp

都道府県トラック協会

10月9日は
トラックの日